

その症状気になりませんか？
肛門の病気・大腸の病気が気になるあなたへ

スッキリするおしりの話

監修

社会保険中央総合病院
大腸肛門病センター センター長

佐原 力三郎 先生

専門の病院で
受診してみましょう。



医療機関名：


• はじめに •

食生活や生活習慣の変化、日々のストレスの増加、私たちを取り巻く環境は昔と大きく変わりました。これら環境の変化が、便を作り排出するために重要な臓器である大腸の病気の増加や、肛門の病気の悪化につながっていると考えられています。

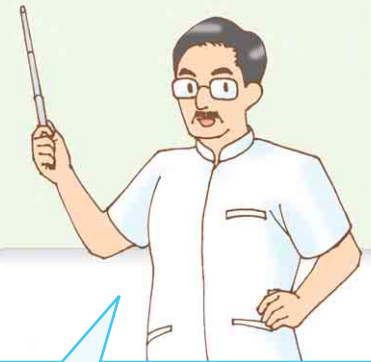
しかし、肛門や大腸の病気は“早く見つけて早く治療”すればほとんどの場合、心配する必要はありません。気になる症状が続く場合は、ガマンしたり、放置したりせずに、かかりつけのお医者さんや、肛門・大腸の専門医療機関（肛門科・消化器外科）に相談しましょう。



こんな症状があったら？

 あなたの症状についてチェックしてみましょう。

- 血が出る・便に血が混じる
- 肛門からイボのようなものが出ている（出てきた）
- 肛門のまわりが腫れている
- 肛門が痛い
- 肛門がかゆい
- 肛門を洗うときにお湯がしみる
- 下着が汚れる
- 便秘がち
- 下痢がち
- 便秘と下痢を繰り返す
- 便が常に細い



どれか1つでも繰り返す症状があれば、肛門の病気（痔など）や、大腸の病気（潰瘍性大腸炎、大腸ポリープなど）が疑われます。まずは、かかりつけ医に相談しましょう！
不快な症状の原因を突き止め、適切な治療を受けることが大切です。

肛門から血が出る・便に血が混じる

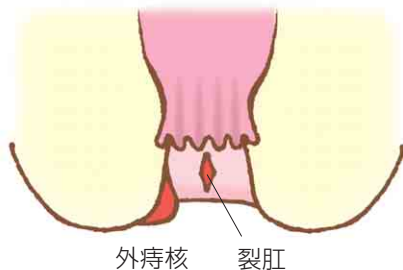
肛門からの出血にもいろいろなタイプがあります。

出血の仕方や色によって、どこから出血しているかがおおよそわかります。



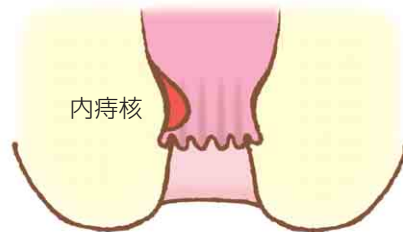
痛みを伴う出血がある (トイレットペーパーに血がつく程度)

…がいじかく外痔核やれっこう裂肛、ないじかく初期の内痔核、かいよう肛門潰瘍など、肛門からの出血が疑われます。



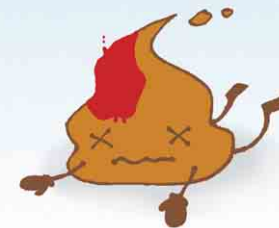
鮮やかな紅色(真っ赤)の血が排便時に ポタポタ落ちる、またはピューッと出血する。

…痔(内痔核)の可能性が高く、肛門からの出血が疑われます。直腸ポリープや肛門がんの可能性もあります。



便に血が混じる・便のまわりに 血がつく(血便)

…大腸炎、大腸ポリープ、大腸がんなどが疑われます。



ヌルッとした粘液を含んだ血が混じる(粘血便)

…潰瘍性大腸炎¹⁾、直腸炎、大腸ポリープなどが疑われます。

1) 潰瘍性大腸炎: 大腸粘膜に潰瘍や炎症がおこる病気

便が赤黒っぽい

…肛門から遠い部分での病気が疑われます。
(大腸炎や大腸がんなど)



40歳を過ぎたら便潜血検査を!

肛門よりずっと奥にできた大腸ポリープや大腸がんなどの場合、目に見える出血は少なく、気づかない程度の血が混じる(便潜血)ことがあります。

便潜血の有無は、大腸にがんなどの病変や何らかの異常がないかを確認するために重要な検査です。

40歳以上で下記に該当する方は、便潜血検査を受けましょう。

また、便潜血検査の結果が陽性の方は、念のため大腸の精密検査を受けましょう。(検査方法は14ページをご参照ください)

- 便の色が変なことがある
- 便に血が付着することがある
- 便が細くなったり、出にくくなった
- 貧血が強くなった
- 身内にがんの患者さんがいる
- 大腸ポリープができたことがある

肛門が痛い

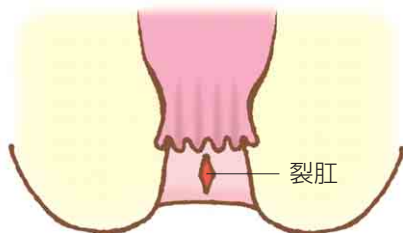
「排便のときに痛い」、「排便に関係なく痛い」、
など痛みの種類はさまざまですが、肛門に
痛みがある場合は痔などの肛門の病気が
疑われます。



排便の際に痛みがあって、 出血も少量ある

…**裂肛** (切れ痔) が疑われます。

排便が終わった後、しばらく痛みが
持続する場合があります。



排便と関係なく痛む

…排便と関係なく、肛門のまわりが
腫れ上がって痛み、38～39℃の
高熱を伴う場合は、**肛門周囲膿瘍**²⁾
の可能性があります。

2) 肛門周囲膿瘍：直腸・肛門周囲に膿がたまった状態。
進行すると痔瘻となる。



その他の痛み

…肛門周囲にあずき大の血豆ができ、激しい痛みがある場合は、
血栓性外痔核が疑われます。

また、自律神経の乱れやストレスからくる肛門痛もあります。



血栓性外痔核



痛みはしばらく安静にしていると和らぐことがほとんどですので、
そのまま放置しがちですが、それによって痔の症状がいつまでも
続いたり、進行してしまうことがあります。

また、痔以外の他の病気が隠れている可能性もあります。

肛門のかゆみ

肛門にかゆみが続く場合は、肛門に病気がある場合と、肛門周囲の皮膚に病気がある場合が考えられます。

女性の場合、肛門周囲を含めた外陰部は排尿や排便、月経などで不潔になりやすく、トラブルがおきやすい場所でもあります。

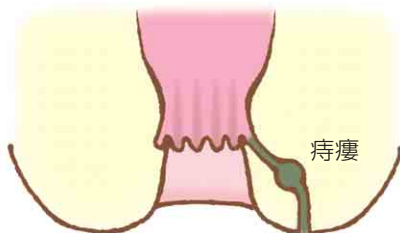


● 肛門の病気(痔など)による分泌物が原因

…痔瘻^{じろう}や直腸脱^{だつ}③、内痔核^{ないじかく}や裂肛^{れっこう}

などが原因で、分泌物や脱出物がある場合、それらが肛門周囲の皮膚を刺激して炎症を起こしたり湿疹がでかたりします。

③ 直腸脱：肛門から直腸粘膜および直腸壁が脱出する病気



● 皮膚の病気が原因

…接触皮膚炎、カンジダ症、肛門周囲の湿疹などの皮膚疾患がある場合、かゆみを伴うことがあります。

● その他の原因

…特に炎症がなくても、精神的なストレスなどからかゆみが起こることがあります。この他に、ごく稀^{まれ}ですが湿疹のような皮膚病変の中に、皮膚由来のがんが隠れていることがあります。



肛門付近にかゆみがある場合をまとめて肛門癢痒症^{そうよう}と呼びます。原因をきちんと確かめて治療することが大切です。

肛門の違和感 (不快感)

肛門から便以外の異物が飛び出すことを“脱出”
といいます。これは痔(内痔核)が原因となっ
ていることが非常に多く、排便時に出ても排便後
に自然に戻る初期の段階から、指で押し込まな
いと戻らない状態、さらには肛門全体が裏返った
状態へと進行する可能性があります。



排便時にいぼのようなものが飛び出すが、 排便後に戻る

…痛みがない場合は、ほとんどが初期の内痔核が原因です。

しかし、内痔核が進行すると
指で押し込んでもなかなか
戻らなくなります。

また、**肛門ポリープ***が原因の
場合もあります。



粘膜・粘液でベタつく、下着が汚れる

…このような場合は、大腸の肛門に近い部分(直腸粘膜)が
外にずれ出るようになっている可能性があります。

肛門が腫れて痛い

…脱出していたものが、腫れ上がって戻らなくなる**嵌頓痔核**や、
血栓性外痔核の可能性が
あります。



嵌頓痔核



血栓性外痔核



内痔核の初期の段階では、そのまま放置される患者さんも多く
いらっしゃいます。しかし、脱出を繰り返すようになると外科的な
処置が必要となる場合もあります。

*肛門ポリープは、“ポリープ”と名前がついていても、大腸ポリープとは
異なり、悪性化することはありません。

便の異常

便に異常が続くときは、消化管に何らかの異常があると考えられます。日頃らご自身の排便状態や、便の性状を観察することは、あなたの健康状態を把握する上で非常に重要です。



便秘が続く

便秘には、**機能性便秘**と**器質性便秘**があります。



機能性便秘	腸の運動機能の低下によっておこる便秘です。何らかの病気が原因の場合と、食生活やストレスが原因の場合があります。
器質性便秘	腸の内容物が通りにくくなっておこる便秘です。大腸がんや大腸ポリープなどが原因の場合があります。

思わぬ病気が潜んでいる場合もありますので、“たかが便秘”と安易に考えないことが大切です。

下痢が続く

激しい下痢がおこったり、慢性的な下痢が長期間続くと、脱水状態や栄養失調状態になってしまいます。また、血性の下痢や粘液が混じった粘血性の下痢は、感染症やがんなどの重い病気が潜んでいる可能性もあります。



急性の下痢 (水様性)	細菌による感染症や食物アレルギー、食中毒が原因と考えられます。
急性の下痢 (血性・粘血性)	虚血性腸炎 ⁴⁾ 、大腸憩室症 ⁵⁾ などの大腸の病気が考えられます。
慢性の下痢 (水様性・泥状)	過敏性腸症候群や乳糖不耐症 ⁶⁾ 、内分泌疾患が考えられます。もちろん、下剤の常用でもなります。
慢性の下痢 (粘血性)	潰瘍性大腸炎やクローン病 ⁷⁾ 、大腸がんなどが考えられます。

4) 虚血性腸炎：腸の血行不良により、炎症や潰瘍を生じる病気

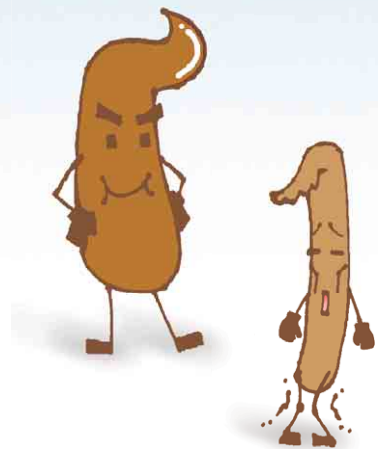
5) 大腸憩室症：大腸憩室（大腸の壁の一部が袋状に外側へ飛び出したもの）が多発する状態

6) 乳糖不耐症：牛乳などに含まれる乳糖が分解できず、消化不良や下痢などの症状を呈する病気

7) クローン病：あらゆる消化管に炎症が多発し、びらんや潰瘍を生じる慢性疾患

便が常に細い

直腸などにポリープやがんができて、便の通り道が狭くなっている場合があります。

**便が黒い(タール便)**

食道・胃・十二指腸など消化管の上部から出血している可能性があります。これは血液が胃酸や消化酵素の影響で黒く変色し、それが便に混じって排泄されている状態です。また、鼻から大量に出血し、その血を飲み込んだ場合も黒色の便が出ます。

**1. 便潜血検査**

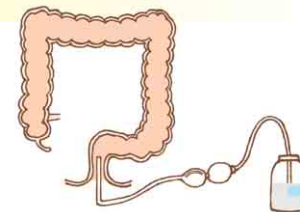
大腸に何らかの異常がないかを確認することができる有効な検査方法です。通常は、2日間の便を少量、それぞれ別の容器に入れて、医療機関に提出します。医療機関では、便の中に血液(血中ヘモグロビン)が混じっていないかを調べます。

**2. 直腸・肛門指診**

医師が、肛門から指手袋をつけた人差し指を直腸内に入れて、内部(患部)の様子を調べる検査です。医師が直接指で触れることによって、肛門管の中の様子がよく分かり、早期のがんかどうか、あるいは痔かどうかを確認します。患者さんの苦痛はほとんどありません。

**3. 注腸X線造影検査**

バリウムを肛門から注入して、X線で大腸の様子を観察します。大腸に異常がないかを確認するための精密検査の一つです。検査の2~3時間前に排便していれば直ぐに行うことができる簡単な検査で、検査時間は15~20分程度です。

**4. 内視鏡検査**

肛門から内視鏡(ファイバースコープ)を挿入して、大腸の粘膜の状態をモニター画面に映し出してみる検査方法です。便潜血検査で陽性の場合など、さらに大腸の様子を詳しく見るために行います。検査時間は15~30分程度です。ポリープの切除や、病変の組織を一部採取することもできます。

